

見守り活動のポイント

－ 気楽に！ 気長に！ 危険なく！ －

◇ 子ども安全ボランティアとは！！

子どもが事件事故に巻き込まれないよう、通学路や公園などでパトロールや見守り活動を行うボランティアです。

県内では、すべての小学校区で学校安全パトロール隊（*）が結成され、地域ぐるみの活動が推進されています。

*子どもの見守り活動を実施する防犯パトロール隊を含むボランティア団体です。

第1 活動するにあたって

1. 基本的な心構え

● 気楽に！

気負わず、肩肘張らず、日常の生活の一部として気楽にやりましょう。

犬の散歩やウォーキング、スーパーへの買い物などでも、「地域安全」の腕章やベストを着けているだけで犯罪の抑止効果があります。

● 気長に！

短期間では、活動の効果は実感できません。気長に続ければ、やがて知らず知らずのうちに、犯罪の起こりにくい環境がつくられます。

● 危険なく！

事故にあったり怪我をしたのでは、継続は困難です。危険なことをする必要はありません。危ないと思ったら警察に通報しましょう。

2. 一人よりも複数で

一人で短時間に活動できる範囲は限られますが、数人で又はパトロール隊として活動すれば、広い範囲で目を光らせることができます。いたるところに腕章やベストを着けた地域住民がいれば、犯罪をしようとしている者も犯行をあきらめるはずです。

3. 目立つ服装で

見守り活動をしていることが一見して分かるように、目立つジャンパーや腕章、ベストなどを身につけましょう。犯罪をしようとしている者に活動中であることをアピールできるうえ、子どもたちに安心感を与えます。

4. 子どもの特性を知ろう

子どもは一つのことに集中すると、周りのことが見えなくなり、車の前に飛び出したりすることもあります。

また、大人の目には見えていても、身長の高い子どもの目線では見えないこともあることを知っておきましょう。

5. 子どもたちに積極的に声をかけよう

「行ってらっしゃい」とか、「気をつけて帰るんだよ」と気軽に声をかけることによって、子どもたちに「地域の人たちに守られている」という安心感を与え、子どもたちとの連帯感も生まれます。

第2 活動の着眼点

- 1 通学路に不審な車（者）はいないかチェックしましょう。
 - 車の中から子どもに声をかけている。
 - 携帯電話のカメラで子どもを撮影している。
 - 子どもたちに無差別に声をかけている。
- 2 子どもの叫び声や防犯ブザー・ホイッスルの音には敏感に反応しましょう。
- 3 子どもに声をかけている不審な人物を見かけたら、子どものほうに「大丈夫？」と声をかけてみましょう。
- 4 夕暮れ時に子どもが遊んでいたら、早めに帰宅を促しましょう。

地域のみなさんで 子どもたちを守ろう！

..... 犯罪は見逃さない！